

「第 51 回肺の健康世界会議」開会式におけるおことば （和訳）



「第 51 回肺の健康世界会議」にオンライン参加できますことを大変うれしく思います。COVID-19 が世界的に流行する困難な状況に私たち皆が直面している本年に、世界会議の開催を実現するために力を注いでこられたすべての皆さまに感謝いたします。

また、結核対策に豊富な経験をもつ多くの専門家が、世界の COVID-19 対策に多大な貢献をしてこられていることを、大変ありがたいことと思います。

世界保健機関（WHO）は 2020 年を「看護師と助産師の年」と名付けておりますが、その看護師と助産師は COVID-19 への対策において重要な役割を果たしています。例えば日本においては、保健所や保健師（看護師資格を有する）が、患者の相談や入院の調整等の取り組みを通じて、感染拡大の防止に力を尽くしてきました。

同時に、COVID-19 は、公衆衛生にとって非常に大きな課題をもたらしています。この歴史的課題は世界各国に影響を与えており、もしかしたら長年にわたる結核対策の進展がくつがえされてしまうかもしれません。

私たちはそれを防ぐことが可能であり、また防がなければなりません。

ユニオンは、その会員である皆さまが、今までに結核および肺の健康に関わる分野で大変重要な貢献をされてきており、極めて重大な役割を担っています。このとても困難なときに、結核対策に奮闘されてきたユニオン会員の皆さまに、心から感謝を申し上げます。また、ユニオンが貴重な情報を世界に発信していることにも感謝いたします。

皆さまは、世界がまさに今必要とする知識と、経験と、影響力とをお持ちです。これまでの100年間、世界の結核とその他の呼吸器疾患の対策に取り組み、世界中に健康をもたらすために力を合わせてきた歴史を有するユニオンに、深く敬意を表します。

この100年間の努力のおかげで、私たちには、多くの取り得る手段があります。幸いなことに、結核には予防策があります。ところが、依然として問題があります。それは、私たちが既に持っているその予防策を、まだ十分に実施できていないということです。本年の会議のテーマが「予防の推進」であることは、大変時宜を得たものです。この度の会議が、きっと皆さまにとってとても実り多いものになることでしょう。

私たちは、人間の本性にかかわる課題にも直面しています。公衆衛生の恐怖と不安は、排除やスティグマの危険を助長し、疾病の適切な予防、診断や治療を阻むかもしれません。喫煙もまた、引き続き人間の本性にかかわるもう一つの問題です。それでも、大変ありがたいことに、健康分野の専門家や市民社会のボランティアなど多くの人々が、弱者を含むすべての人の身体的および精神的な健康のために尽くしておられます。日本の結核予防婦人会が自主的な活動を通じ、それぞれの地域で結核に対する意識を高めているのは、その一例です。

ユニオンの活動は、私たちに希望を与えてくれます。ユニオンによって、世界の多くの地域にいる私たちは繋がり、結核をなくすことを目指す共通の目標に向かって協力しています。私たちと子どもたち、そして将来の世代のために、より健康な世界をもたらすことができるよう、これからも私たちは大切な役目を果たしてまいります。